

卒論 アメリカにおける銃規制

杉浦晃一

はじめに

米国銃規制問題→1993年ブレイディ法施行
ブレイディ法

→犯罪歴チェックで購入日を猶予期間と決定
学校での銃乱射事件が増加

2012年12月 東部コネティカット州の小学校
→銃乱射事件 子供・先生他26人殺害

オバマ政権→銃規制強化法案を検討・決定

第1章 銃社会アメリカ

1節 英国の武器所持の権利

2節 合衆国憲法における銃保持

3節 米国における銃所持に関する考え方

1節 米国銃社会の背景

米国が英国の植民地という背景

a) 英国の武器所持の権利

武器所持が法的な権利として認識＝武装法

武装法：防衛の為の武器保持の要求

b) 英国の民兵制度

民兵：全青年白人男子の武器保持の権利・義務

民兵の機能

ア) 州単位で民兵を保有・維持

→ 国家の常備軍の強圧的な行動の抑制

イ) 反乱運動の抑制

→ 警察権力の主翼形成

2節 合衆国憲法

米合衆国憲法修正第2条

→ 人民の銃保持・携帯の権利保障

有害な規定: 犯罪や事故の原因

→ イギリス植民地時代の歴史・習慣



影響

銃反対論者が憲法修正を希望



3節 米国に関する移民の考え

米国民は自力本願で自己防衛

ゴーgetterが銃社会形成の原動力

ゴーgetter:やり手・精力的家

→野原での生活の必要性・インディアンの脅威

友達の復讐・家畜の死守・財産保守の強靱な意志

射撃動作が早い拳銃が高く評価

→銃は米国の家庭に浸透

第2章 銃乱射事件

1節 日本人留学生射殺事件

2節 フランス銃事件

3節 学校での銃乱射事件

1節 日本人留学生射殺事件

1992年10月17日ルイジアナ州バトンルーージュ市
日本人留学生服部剛丈の事件

ハロウィンパーティで仮装して誤り居宅侵入

服部：『Freeze』の言葉に構わず侵入

ピアーズ：服部の侵入に驚愕し誤射

ピアーズの誤射に群裁判所が無罪の判決

2節 フランス銃事件

- a) 1995年2月 北東ルーヴシエンヌの町
少年アレクシス・ポルヴォア
→ 家族と隣人計6人殺害

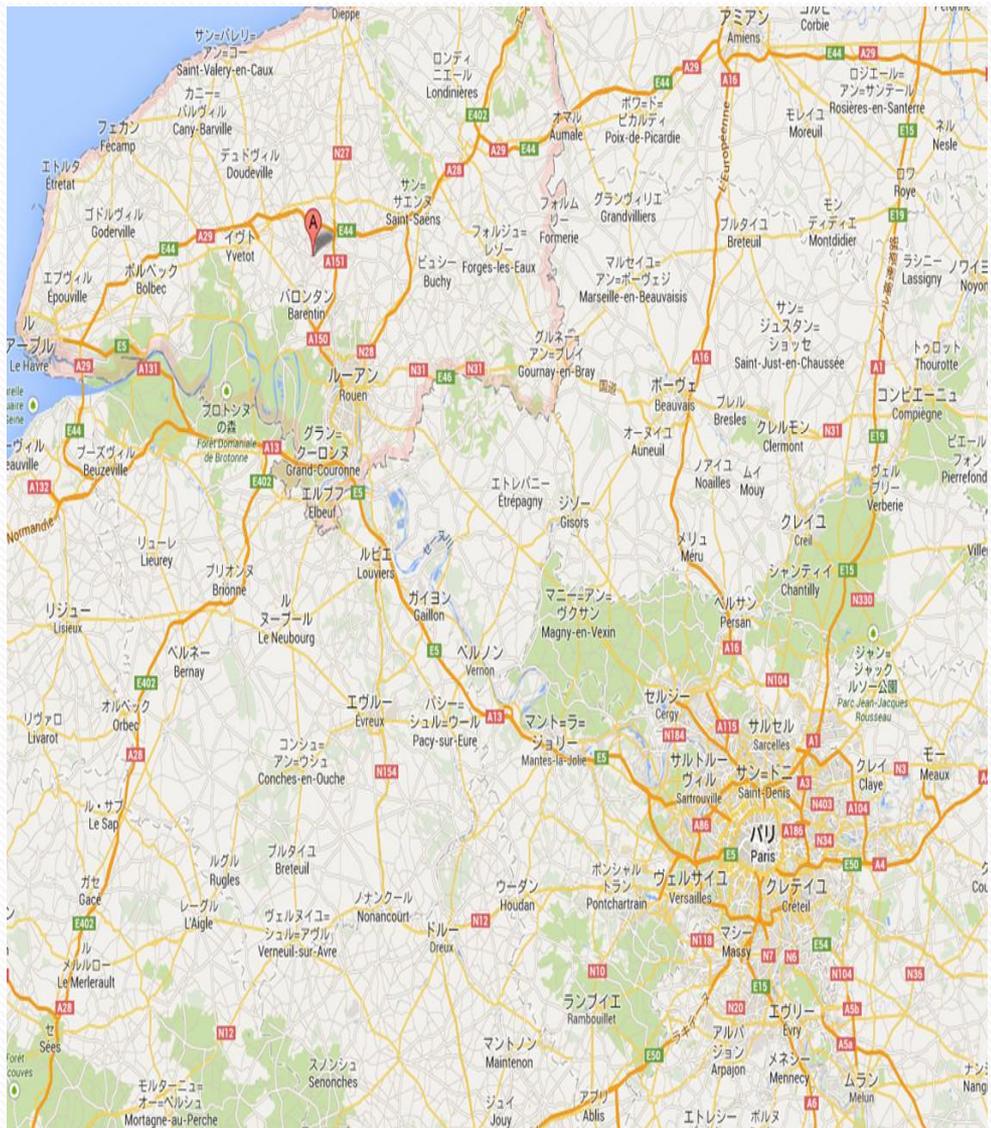
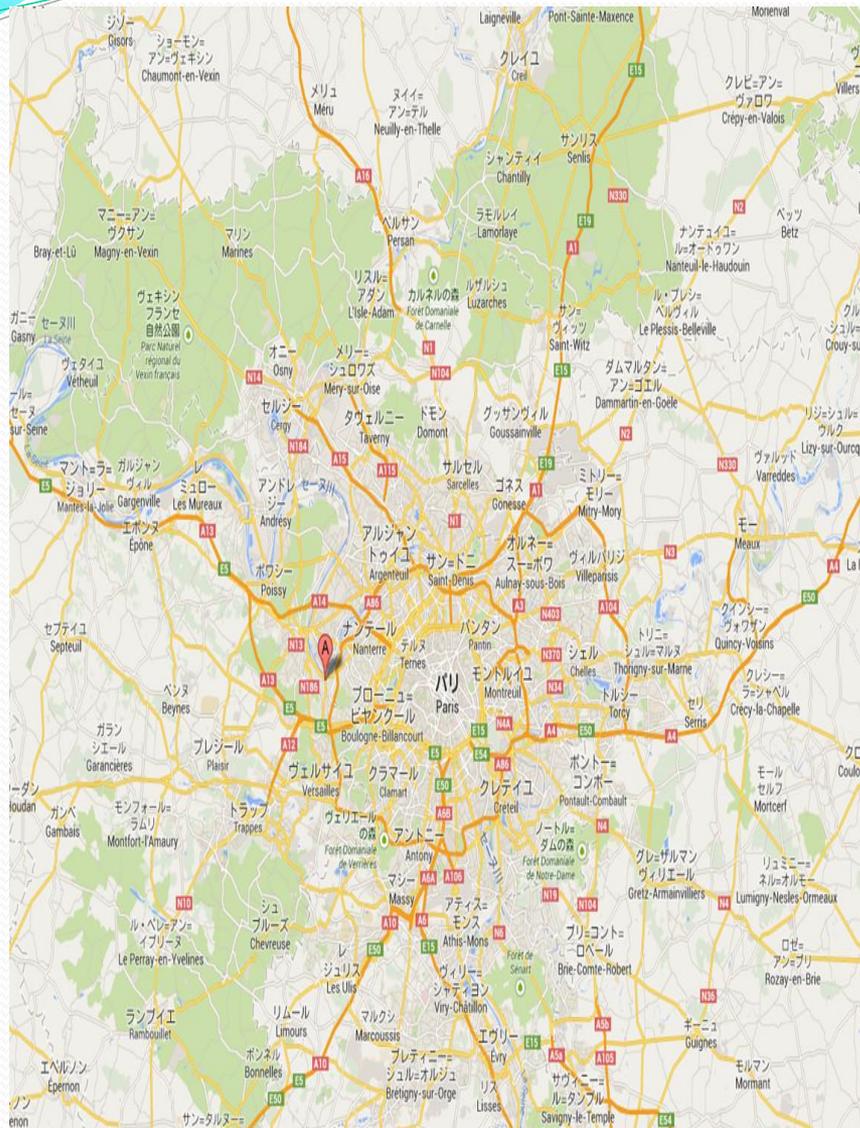
殺害の理由：以前から父親の暴力が原因

b) 2004年10月 北西アンクルトヴィル
シュル＝エクリール

少年ピエール・フォリオ

→ 家族3人殺害・1人重傷

殺害の理由：「キレた」



3節 学校銃乱射事件

a) 1993年 ケンタッキー州グレイソン
イーストカーター高校の教室

16歳の少年→少女の頭部に1発発砲

b) 1998年3月 アーカンソー州の北東部
ジョーンズボローの町

アンドリュー・ゴールドデン ミッチェル・ジョンソン
→教師1人、生徒4人殺害 生徒11人重傷

c)1999年4月 コロラド州デンバー南部リトルトン
コロンバイン高校の構内

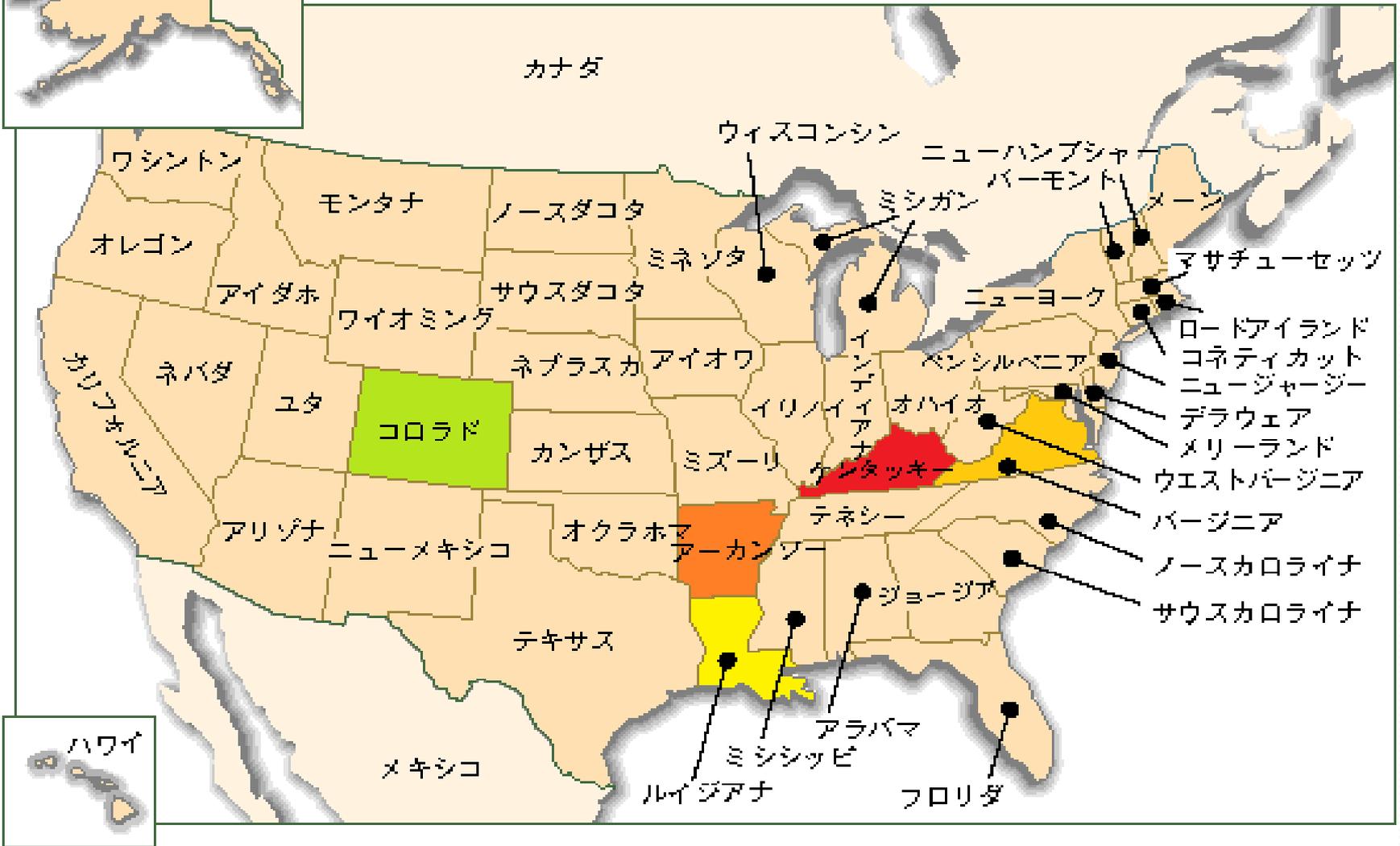
エリック・ハリス ディラン・クレボルト

→教師1人、生徒11人殺害 生徒20人以上を負傷

d)2007年4月 バージニア州西部ブラックスバーグ
バージニア工科大学の銃乱射事件

韓国人チョ・スンヒ

→学生・教授計32人殺害 49人被弾



第3章 銃規制 賛成論者・反対論者

1節 銃規制・反対論者の意見

2節 銃規制・賛成論者の意見

1節 銃規制・反対論者の意見

a) 米国ジョージア州アトランタ郊外ケネソー市

1982年5月：全米初の市条例制定

→ 1家に1丁の銃器の所持を義務化

→ 弾薬の保管も義務化

目的：犯罪者への威圧・威嚇

結果：犯罪の減少

b)アリゾナ州在住女性サンドラ・フロマン
名門スタンフォード大学卒業後→弁護士
自宅で就寝中事件に遭遇→銃推進派

事件後→NRA(全米ライフル協会)に入会

当時の会長チャールトン・ヘストンの後継者
→2007年まで会長就任

2節 銃規制・賛成論者の意見

a)銃規制賛成論者の団体(CSGV)

→全米銃器暴力防止連合

構成：宗教・労働・医療・教育・市民団体の40以上

目的

→銃の製造・販売・譲渡・所持・所有・使用の禁止

b)サイレント・マーチ実施

企画者女性ティナ・ジョンストン

理由：夫が強盗に射殺

→犯人は未成年懲役9年、犯罪者が数年で出所の事実

サイレント・マーチ

目的：銃での犠牲者の追悼の意

銃規制反対議員への上告の意

行動：議員の出入り場所に靴を置く運動

c)バージニア工科大学銃乱射事件の被害者 コリン・コガード

事件後→長いリハビリ生活→大学卒業
自主制作によるドキュメンタリー映画の製作
→映画のタイトル「32人のために生きる」
映画祭に出品→好評価
映画の上映により銃規制が前進

第4章 米国銃規制の展望

1節 銃規制反対の主張

2節 銃規制賛成の主張

3節 銃のない社会を求めて

1節 銃規制反対の主張

銃の廃止は全面的に反対

犯罪者が存在→自己防衛→抑止力が目的

NRA・ガンショップ・議員など

様々な団体が反対

学校での事件・銃乱射事件

→全学校に銃武装の警察官の配置

2節 銃規制賛成の主張

銃規制・廃止を全面的に賛成

銃の存在が事件の発生を助長

→最近の事件→ターゲットが小学生

オバマ政権が銃規制に賛成・強化を検討

CSGV・犠牲者の家族・オバマ政権など

銃規制に賛成・賛同

3節 銃のない社会を求めて

私は銃規制に賛成

理由：毎日の生活・活動が危険

→身近に銃の存在→事件の動機

銃と生活の共存→安心・安全の破壊